

吉村章さん

1919(大正8)年2月10日生まれ

当時の本籍地 奈良県

陸軍 独立混成第45旅団独立歩兵第273大隊



● 1940(昭和15)年9月1日 応召 広東、香港上陸、ジャワ島、満州(北孫呉) 1,943(昭和18)年 召集介助

● 1944(昭和19)年12月2回目の召集、独立歩兵第273大隊で沖縄へ

- ・行く時に、後の家内に「必ず生きて帰ってください」と言われた
- ・大阪8連隊で部隊が編成されて、近畿地方各県からよ600人ほどを寄せ集めて、それで沖縄に行った。

● 1945(昭和20)年4月1日 アメリカ軍が沖縄本島に上陸

・(米軍が)上がって来るの見てました。軍艦がずらーっと並んでな。上陸用舟艇20隻も30隻もずーっときよんねん。アメリカ兵が一生懸命でっけって走ってきよんねん。「こらあかんで」つちゆうて皆で一つと後ろへさがって。戦車はわしは見たこともない。

● 負傷

- ・那覇からず一つと摩文仁の丘まで行った。
- ・私は大隊本部の指揮班に属して各中隊と連絡をしていた。そのうちに艦砲射撃で鉄兜の上からやられて、鉄兜にもすごい大きな穴あいて、血がどろどろと流れて、そのまま持っていた三角巾を絞めて後方に下がった。
- ・それからしばらくして、今度は迫撃砲でやられて、足も、手も、手(右腕)も今はこれ不自由になって。
- ・自分でなにか処置しただけやで。出血止まって、頭ぐる一つて巻いて、そらしょうがない衛生兵も誰もおらんで。だから死体でもそこらごろごろごろ転がってんねんで。誰もそんなもん始末せえへんねん。
- ・そらもうその戦闘のやつはな、もの凄い残忍なこともあったしね。はらわた出たり、首のないものやったり、手のないものや色々いてますねんや。そんなんわしは目の前で見てますねんで。
- ・こっから、こっちへ弾抜けてまして、迫撃砲の弾がな。そんでまだ背中には弾が残ってますねん3発。レントゲン撮ったらよう分かる。それでMRIにぜんぜん入れん。
- ・2、3日してからかなあ、よその中隊の人がな、わしといっしょに壕から海眺めてましてんや、わしは鉄兜かぶって、その人は艦砲射撃でずーんと眉間やられまして、すばーんとひっくり返りましてんで。その人もころんと亡くなりましたけどな。
- ・それからしばらくしてわしと班長が夜間に、ばんばんばーんと撃たれて、足をここやられて。即死というところやけど、まあ息はあったんや。そんで「うちの家に(※軍刀を)持って帰ってくれー」と言うてな、「絶対に持って帰られへん」と思っていました。

● 壕での生活

- ・5月ごろから、ず一つと壕の中に入って、そこで色々民間人と話をして、食べ物などをめぐんでもらったりした。
- ・すぐ海で。兵隊と民間人あわせて20、30人。そんなん誰が誰だか、分からへんわな。どこの兵隊か分からん。みんな逃げてきて、同じ部隊の者もおらんしな。
- ・水が落ちてる壕もあるけど、わしらのところはあんまりそういうことはなかったし、外へいって水をくまんことにはあきませんでな。
- ・あの時分はまだ自決するやつおらんかった。わしは手榴弾は持ってなかったわ。皆持ってなかったで、全部兵隊でも、その部隊によつてな。
- ・「お前ら捕虜になったらみんなアメリカ行って殺されるぞ」って、こんな事言うやつがおんねん。流言飛語が飛ぶんでな。わしはそんなことはないやろと思つてな、じーっとしてたら、結局8月15日なった。

● 1945(昭和20)年8月15日 米軍に投降

- ・6月23日に沖縄は終戦になりました。投降する人もおりましたけどな、私たちはもうそんなことはないと思つていて、結局8月15日にアメリカの2世が「戦争が終わりましたからみなさん出てきてください」と言つて、で、「ほんまかなあ」と思つて自分で行った。わしは1人だけ先出てきた。いったん上あがったら、下へは降りてこられへんから、それでもうしゃあない、後がどうなかつたか知らない。
- ・裸にされてDDTをまかれて、それで班長さんからあずかつた軍刀もとられまして、遺族に渡してくれと言いましたけれども、それは出来なかつたんで、それが残念です。

● 1946(昭和21)年 復員、浦賀港へ上陸

(取材日:2016年7月15日)